



アイデアが溢れるために必要なものは…？

校長 神原 由香里

夏休みの自由研究は、それはまさにアイデア溢れる作品ばかりでした。一人ひとりの子どもたちがやってきたことは多岐に渡り、一概にその中から一つの作品を選ぶのはあまりにも難しく、8部門に分けて選考していきました。でも、結果全員校長賞！どの作品も内容が素晴らしかったです！

校長賞発表

全員校長賞

大賞 1～2名

学習部門

調べ物部門

身近な疑問部門

観察部門

体験記部門

アート部門

実験部門

旅行記部門



さらに、講話朝会で、ますますアイデア溢れる2学期にしてほしい、と話し、その思いをイメージ化した若ぶーたんも披露しました！

そして、現在、校長賞入賞の作品を中心に、校長室前に展示しています！1.2.5.6年生の授業参観・懇談会はすでに終了してしまいましたが、学校へお越しの際には、ふらっとお立ち寄りいただき、子どもたちの力作をご覧ください。

どうとく とくべつじゅぎょう
道徳 特別授業

アイデアで
「できない」を「できる」に！
～みんなで「楽しい！」を広げよう～

あおき はるちか
SSP 青木治親さん 全音パラモライター 竹村雄一さん

そして、講話朝会の後、引き続き、道徳の特別授業（1.2.4.5.年）を実施しました。ゲストにお迎えしたのは、青木治親さんと竹村雄一さん！子どもたちには、どんな方が伝えず、タイトルだけを表示して、「アイデア溢れる2学期にするために自分ができることを考えるきっかけにしてね！」とだけ伝え授業が開始！2人だけが登場するののかと思いきや、さらに一匹の犬がいました。

実は、竹村さんは、全盲の方でした。つまり一緒にいた犬は盲導犬だったのです。本当に全盲の方と会うのはもちろん、盲導犬を見たのも初めての子ばかりでした。とにかく盲導犬は賢い！おとなしい！竹村さんの目として活躍する盲導犬「セル」の素晴らしさに驚いていました。

1学期に「共にささえあいサポーター講座」で、視覚障がいや聴覚障がい、肢体不自由など障がいの名前や、実際にその方々が話しているビデオを観て、「少しの事で自分にもできることをやろう！困っている人がいたら助ける！」と決意していた子どもたちでしたが…。

まず、与えられた課題は、竹村さんをイスに案内して座らせる、というもの…こっちに来てください…などは通じない！「あっち」「こっち」などの指示語をいかに通常使ってしまっていたかを思い知りました。そして、次は、竹村さんの夢「バイクに乗りたい」が叶えられるかどうか、という課題。子どもたちは口々に「目が見えないからバイクに乗るのは無理」と答えていましたが、そこに登場したのが、SSPの青木さんが開発した三輪バイク！さて、竹村さんは無事バイクに乗って走ることができたのでしょうか？



イスに案内して、竹村さんに座ってもらおうとするが難しい！



三輪バイクが登場！バイクに案内し、形状・パーツを説明！



インカムを装着し、みんなで協力して竹村さんに指示を送る！

どの学年の授業でも、最後は、「なぜ青木さんがこのようなバイクを作ろうとしたのか」そのきっかけを話してもらいました。実は、青木さん、ロードレースの世界チャンピオンにもなった方で、世界を飛び回っていました。現在もオートレーサーとしてレースに出場しています。青木3兄弟として、世界で活躍していたそうですが、真ん中のお兄さんが、練習中の事故でバイクに乗れなくなってしまいました。そのお兄さんともう一度バイクで走りたい、お兄さんをもう一度バイクに乗せたい、という思いがこのアイデアにつながり、今では、視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由などいろいろな障がいの方が乗れるようなバイクを次々と開発しているそうです。それぞれの障がいによって、バイクに施す仕掛けは違うそうですが、「バイクに乗りたい」という願いを持っている人を、何としても乗せたい、という強い思いが毎回新しいアイデアにつながり、実現させているそうです。授業の最後、青木さんからのメッセージは…

『できない、とあきらめることは簡単。でも「できない」と決めつける前に、まずやってみる。ダメを探すのではなく、できるを探す。そうすることで「楽しい」が広がっていく！』子どもたちの心に響きました。

つまり…アイデアが溢れるために必要なものは…それは、

振り返り

その「人」・「もの」に対する強い思い！



無理だと考えても何も変わらないから、他のことを考えること…例えば、国語のテストでとても悪い点数を取って、もう無理だ、と考えないで、「どうして間違えたか」「どうしたら次は間違えないか」を考えて次に活かせばいいことが分かった。

実際にバイクを動かしたりして、体験してみて、目が見えない人、見えにくい人を手伝えることはとても難しく、自分がその人になりきればいいのか？と考えました。(5年)

目が見えない人を誘導したり、説明したりするのは、最初「できる！」と思っていたけど、やっているのを見ると、そんな簡単ではなく、「ここ」と言っても分からないことが分かった。

学んだことは、障がいを持っている人でもバイクに乗れるということです。工夫を重ねれば、「できない」を「できる」に変えられるのはすごい！(5年)

障がいがある人でもバイクに乗れるように、「出来ない」「無理」とあきらめず、「できる」ように工夫することが大事だと分かりました。他にも、「だれかのために～する！」ということがあきらめないことにつながると分かりました。「あきらめる」のはカンタン。「できる」に近づけることは、時間がかかってしまうけれど、すごく大切だと学びました。(5年)

初めて見た時は、障がいはない人ではないかと思っていましたが、話を聞いて、見た目で決めつけてはいけないんだな、と思いました。最初はバイクに乗ることもできなくて、運転もできないと思っていました。けど、みんなで協力して助け合っていけば乗れるし、運転もできるんだな、と改めて感じました。(5年)

実際に声をかけるとなると意外と勇気が必要なんじゃないか、と思いました。でも、声かけするとその人はすごく助かる気持ちになってくれると思います。困っている人に、どうやって声をかければいいのか、どうやって教えるか、声かけをするかなど、よく学びました。(5年)

こまった人がいたら、たすけてあげる。みんなのねがいをかなえたい。
いろんな犬がいるんだね。よのなかにはいろんな人がいるんだね。べんきょうになった。(1年)

たけちゃんがバイクにのってるところがかっこよかったです。たけちゃんがひとりでバイクにのれるのがすごいと思いました。犬がしごとをしているときは、さわっちゃいけないってわかった。(1年)

目が見えない人でもなんでもできるのがすごかった。バイクにのっているところがすごかっこよかった。セルくんが目のかわりになってすごかったです。(1年)

目がみえなくなつてバイクにのるのをあきらめようとしたけど、目が見えない人でものれるバイクを作ったのがすごい。セルがかいだんやおうだん歩道があるかを教えてくれるのがすごい。(2年)

青木さんは、目が見えない竹村さんにのれるオートバイをつくったのがとてもすごかったです。竹村さんが好きだったオートバイを目が見えなくてものれるようになったことにとてもかんとどうしました。(2年)

目が見えない人でもバイクにのっているところがすごかったです。犬が目が見えない人のかわりにかいだんやだんさを教えてすごかったです。(2年)

ふれあい委員のアイデア溢れるイベント

ふれあいなんでも発表会！ 9/25・28 昼休み



今年度から発足した新委員会、ふれあい委員会。若松小の「たてわり活動＝ふれあい活動」を盛り上げるべく発足した委員会です。

運動会では、応援団長として活躍することになりますが、その前に委員会として、さらにふれあい活動を盛り上げようと様々な取り組みを始めています。その一つが、「ふれあいなんでも発表会！」

なんでもいいから「自分から」発表しようとする人たちを募集して発表会を行いました。それをたくさんの子どもたちが見に来て、体育館はまさにコンサート会場！司会進行はもちろん、ふれあい委員です！





1人で堂々発表！卓球サーカス！



チームでダンス発表！



大縄跳びに挑戦！



クラスで歌や劇などを発表！



コンサート後には、しっかり振り返り！よかったところ、改善点などを共有して次に繋げています！

ふれあいあいさつ運動

そして、この委員会で今年度から担っているのが、ふれあいあいさつ運動！運動会を盛り上げるため、ふれあい班の団結力を高めるために、2学期は、ふれあい委員が中心になって進めています！



いよいよ2学期のメインイベントともいえる運動会が、10月31日に実施されます。今年から、このふれあい委員が行う応援合戦も新たに入りました。表現も学年団で行います。子どもたちがアイデアを出し合い、一人ひとりの最高の笑顔が溢れ出す瞬間をご期待ください。